

第47回 造血幹細胞移植委員会
(平成28年2月16日)
資料 1

造血幹細胞移植推進拠点病院事業の 方向性について

第46回 造血幹細胞移植委員会での主なご意見

事業内容に関すること

- 造血幹細胞移植推進拠点病院間の連携体制が必要。
- 特に人材育成の面で、日本造血細胞移植学会との連携が重要。
- 人材育成については次代を担う移植医のための体制作りを意識していく必要がある。
- 医師以外の移植関連の医療従事者の育成も重要。
- 造血細胞移植コーディネーター（以下、HCTC）の育成のみではなく、周知させるための普及啓発活動が必要。
- HCTCの雇用体制の整備も検討していく必要がある（診療報酬加算など）。
- 地域連携やコーディネート期間短縮に向けた骨髄バンクとの連携体制の構築が必要。

拠点病院の配置に関すること

- 地域によって人口や移植施設数に大きな差があり、拠点病院の数の見直しも必要。
- 地域ブロックの必要性の検討や適正化が必要。

今後のスケジュール案

第47回 造血幹細胞移植委員会で、まず『事業内容に関すること』について議論。
次回、第48回 造血幹細胞移植委員会にて、『拠点病院の配置に関すること』等を議論。
最終的に造血幹細胞移植推進拠点病院の新たな認定基準を設定。新基準での運用を開始。

造血幹細胞移植医療体制整備事業

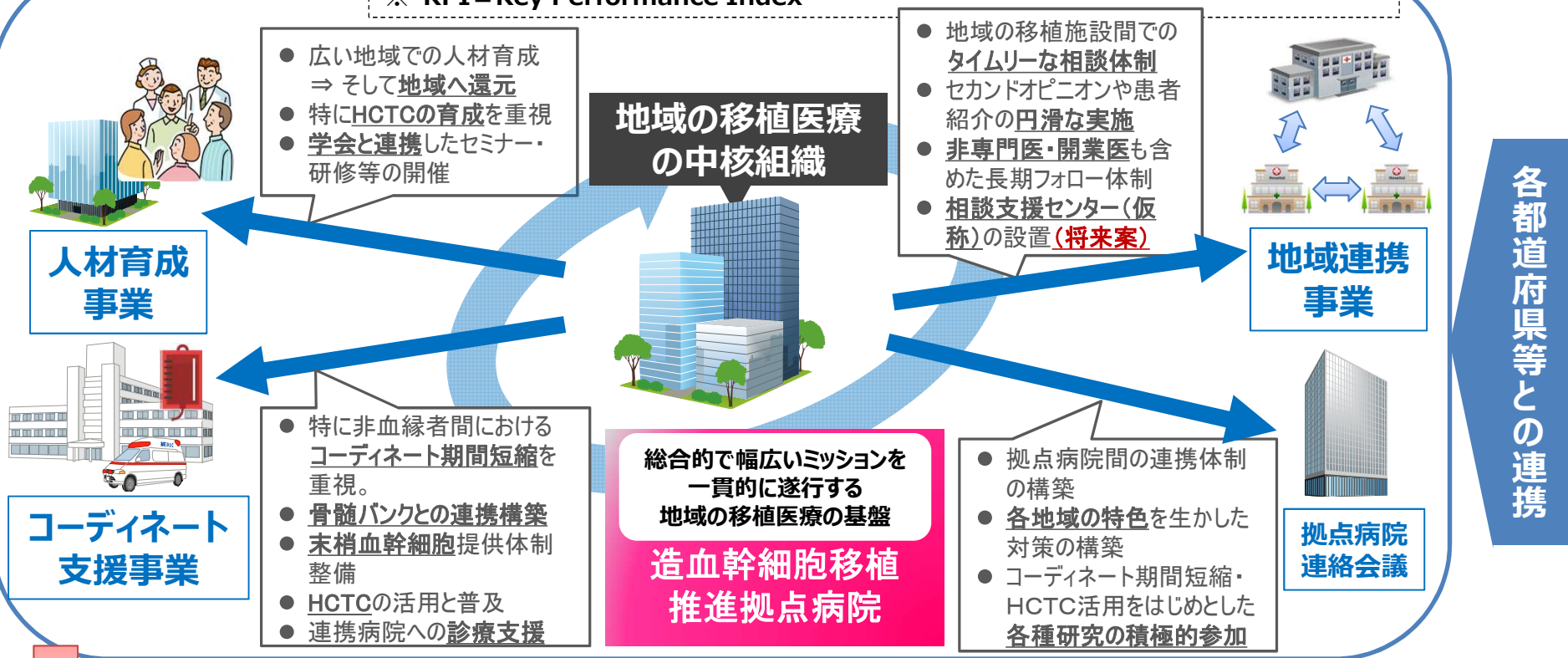
事業の目的

血液疾患患者全体の生存率の向上のために、

- 造血幹細胞移植を必要としている患者に対して、**適切な時期**に、**適切な種類**の移植を提供できる体制作り。
- 将来的には、**どこの地域**にいても、**誰でも、より安全に**受けることができる治療方法となることが目標。
- そして、長期生存が得られるようになった際の、移植後のより良い**長期フォローアップ体制**の構築。

事業の内容

※「人材育成」・「コーディネート支援」・「地域連携」それぞれの活動プロセス全体を評価できるように、それぞれに複数のKPI指標を導入。さらにKPI指標のレビューを通じてPDCAサイクルを実施。
 ※ KPI = Key Performance Index



- ・ 移植医療技術の均てん化
- ・ コーディネート期間の短縮
- ・ 各地域毎のネットワーク構築

安定的供給を達成

最終的に、造血幹細胞移植患者の生存率のさらなる向上へ

造血幹細胞移植医療体制整備事業での連携体制



造血幹細胞移植
推進拠点病院

- 研修・セミナーの標準化
に向けての連携
- 移植後患者手帳作成
についての連携
- HCTCの育成についての
連携
など

造血幹細胞移植患者の
生存率のさらなる向上へ



日本造血細胞
移植学会

【目指すべき点】

- 移植医療の質の向上・均てん化
(全体的な視点を重視)
- 各種移植医療従事者（HCTC等）の育
成のための体制整備
- 移植関係機関との移植医療に関する情
報の共有
など

【目指すべき点】

- 移植医療の質の向上・均てん化
(地域連携の視点を重視)
- コーディネート期間の短縮
- 各地域毎のネットワーク構築
- (地域) 普及啓発の推進
など

- 拠点病院連絡会
議等での方向性の
共有
- HCTCの普及に向
けた協力
- 政策研究の推進
など

- 政策研究の推進
- 審議会や拠点病院連絡会議
等を通じた方向性の共有
など

行政
厚生労働省
各地方自治体

【目指すべき点】

- 移植医療体制の適正化・
均てん化
- あっせん事業者の適正な運営
体制確保
- 地方自治体等の積極的関与
の推進
- 拠点病院事業の整備
- 国民全体への普及啓発活動
の推進
など

今後の造血幹細胞移植推進拠点病院事業の方向性 ①

(1) 人材育成事業

造血幹細胞移植医療の質のさらなる向上と底上げのために拠点病院で進めていくべき点として、特に地域間格差の是正と造血細胞移植コーディネーター(HCTC)の育成を念頭に置く。

医療従事者の人材育成

地域への還元とそれによる**医療技術の向上・底上げ**を第一目標とする

⇒ ① 医師をはじめとした医療従事者の長期研修。

(医師であればより長期の研修が必要 と考えられ、その体制の構築)

② 研修元の施設へのサポート。

③ セミナー・研修会等については、特に拠点病院間および学会側とのマテリアルの共有などにつき検討。

骨髄採取医師の育成と診療支援

地域によっては骨髄採取のための医師不足のため、骨髄採取件数の増加が困難なケースもみられる。これを解消するために、

① 骨髄採取ができる医師を育成し、最終的に各都道府県で採取医師を数名増加させることが目標。

② 上記①の目標を達成するまでの間、拠点病院からの診療支援などにより各地域をカバー。

造血細胞移植コーディネーター(HCTC)の人材育成(コーディネート支援事業とも関連)

HCTCについては、**全国的にその必要性がまだ十分に周知されていない**ことが、数の増加や安定した雇用体制の構築などにつながっていないという面も大きいと考えられる。

① まずは、**個々のHCTCを引き続き育成していくとともに、HCTCの有用性についてのデータを収集し、**

② **各地域におけるHCTCについての普及啓発活動の推進や各地方自治体へのアピールを行い、**

③ **最終的に全国的なHCTCの人員の増加および安定的な雇用体制の構築**に結びつけていく。

今後の造血幹細胞移植推進拠点病院事業の方向性 ②

(2) コーディネート支援事業

現在の骨髄バンクのコーディネート期間(約130日)の大幅な短縮が目標。骨髄バンク(地区事務局)との連携、HCTC対策、研究の推進を中心に行う。

骨髄バンク(地区事務局)との連携

各地域で、非血縁者間骨髄採取および非血縁者間末梢血幹細胞採取の**日程調整に難航**し、結果的に**コーディネート期間の長期化**につながっているという面もある。そこには各地域ならではの事情や特徴もある。
⇒ 骨髄バンク各地区事務局が把握しているコーディネート期間短縮のための課題などについて、拠点病院も連携。各地域のコーディネート期間短縮のために、例えば各地域内でのタイムリーな骨髄採取・コーディネート状況の把握体制構築や各地域での採取曜日の調整などに連携して取り組む。

HCTCの配置および普及啓発活動の実施

HCTCについては、**全国的にその必要性がまだ十分に周知されていない**ことが、数の増加や安定した雇用体制構築につながっていない面がある。

- ① 各拠点病院でHCTCを引き続き専任で配置。HCTCの有用性についてデータ収集なども行う。
- ② 各地域におけるHCTCについての普及啓発活動の実施（特に移植非専門の医療従事者へ）。
- ③ **最終的に全国的なHCTCの人員の増加および雇用体制構築**に結びつけていくことを目標とする。

非血縁者間コーディネート期間短縮に向けた研究の推進

非血縁者間コーディネート期間短縮のために、何が課題となっていて、何をすれば短縮につながっていくのかが、まだ十分明確になっていないという一面もある。

平成28年度の厚生労働科学研究では、コーディネート期間短縮も含めた研究課題を公募しているが、拠点病院も積極的に協力し、場合によっては拠点病院が中心となり研究やトライアルを実施する。

今後の造血幹細胞移植推進拠点病院事業の方向性 ③

(3) 地域連携事業

移植症例の円滑な相談・紹介体制(テレビ会議システムの導入などによる)、骨髄早期採取の促し、骨髄・末梢血幹細胞採取のための医師派遣、骨髄バンク地区事務局との連携、全国的に統一した患者手帳の作成、を中心に行う。

地域内の移植医療連携体制の整備

個々の移植医療機関で、臨床経過で困っている症例などについて**テレビ会議システムの導入**等により、画像所見・病理所見も含めて、タイムリーに相談できる体制を構築。

⇒ これにより移植患者の治療内容の質の向上を目指す。また、患者紹介やセカンドオピニオンの相談などもこのシステムを通じてより円滑になることも目指す。

この他、移植を専門としない医療従事者に向けた移植医療の普及啓発活動や骨髄バンク地区事務局との連携なども適宜実施する。

造血幹細胞移植後患者手帳の作成

移植患者は、移植後も**慢性GVHD**や**二次がん**、などに長期にわたり注意を払う必要がある。

しかし、移植後経過が長期になるほど、**通院の利便性**や**転居などへの対応**も必要。

⇒ ① 開業医などをはじめとした一般医でもポイントや困ったときの連絡先がわかる手帳で、

② 患者にとっても転居などの際にどこに連絡を取るべきか、などがわかりやすいものであることを目指す。

また、患者手帳の作成にあたっては、学会とも連携しつつ、全国的に統一した患者手帳の作成を目指す。

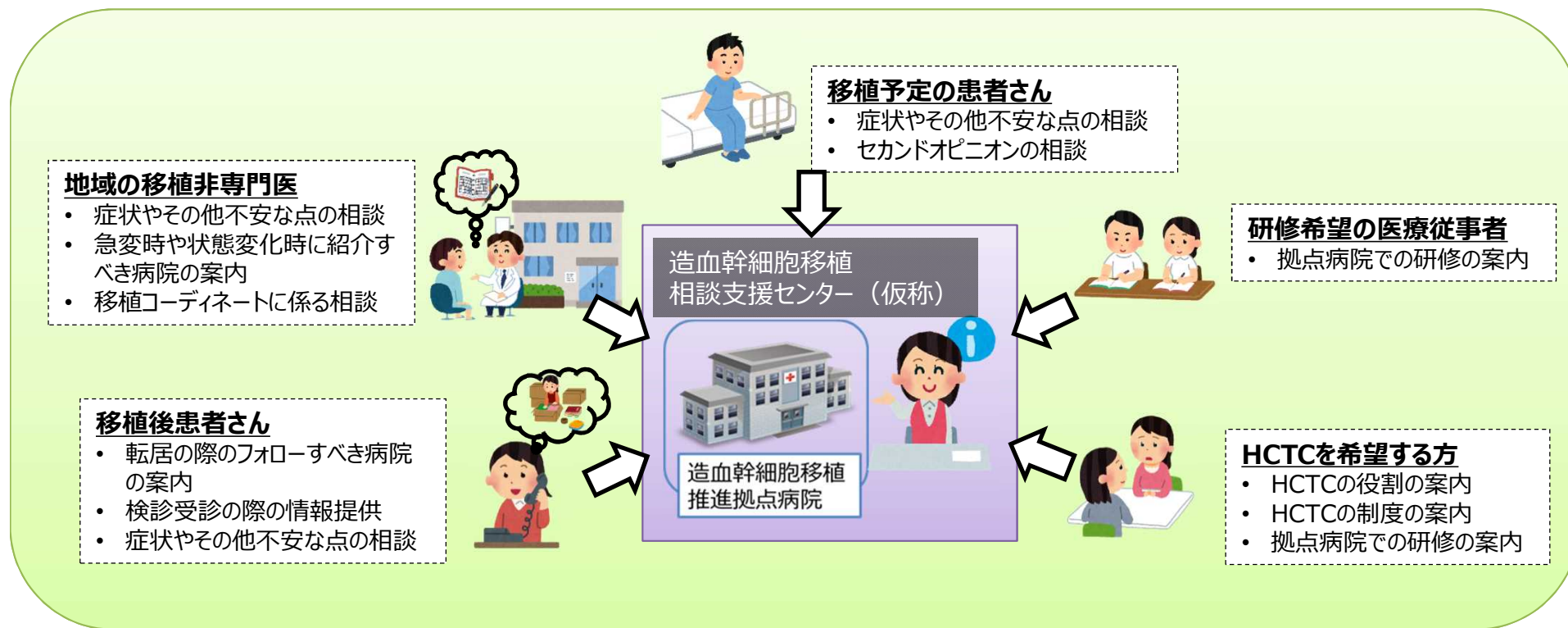
造血幹細胞移植相談支援センター(仮称)の設置と運営

移植後患者や地域の移植非専門医(開業医など)の相談窓口になるのみならず、これから移植を受ける予定の患者、各種研修などを希望する医療従事者、HCTCの情報などについても情報提供する窓口となることを目指す。将来的に造血幹細胞移植自体の普及率の向上やHCTCの成り手の増加にも結びつけていくことを目標とする。

造血幹細胞移植相談支援センター（仮称）の運営体制構築


目的


移植後患者さんや地域の移植非専門医（開業医など）の相談窓口になるのみならず、これから移植を受ける予定の患者さん、各種研修などを希望する医療従事者、HCTCの情報などについても情報提供する窓口となることを目指す。これにより造血幹細胞移植自体の普及率の向上やHCTCの成り手の増加へと結びつけていく。

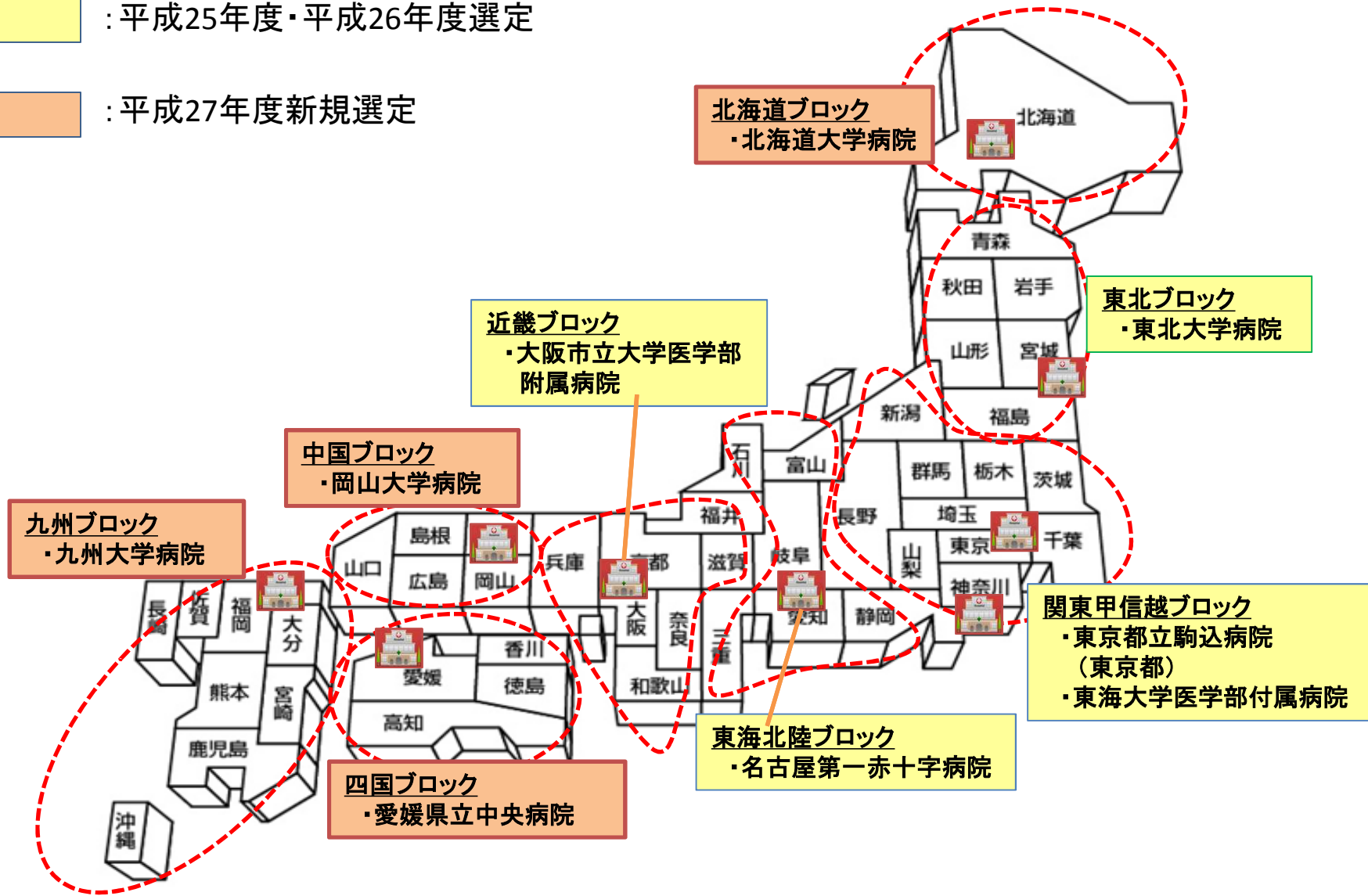


具体的に行うこと

1. 拠点病院にてセンターを設置する計画作成。
2. 試行的に開始 ⇒ まずは一部の拠点病院で運用 ⇒ 課題の把握と修正 ⇒ …… ⇒ 全国の拠点病院に拡充
3. 周知するために、各地域の地方自治体や医師会との連携も検討。移植後患者手帳への問い合わせ先・連絡先の掲載も。
4. 将来的に造血幹細胞移植の普及啓発にもつながり、HCTCなどの成り手の増加にもつながることを目指す。

 : 平成25年度・平成26年度選定

 : 平成27年度新規選定



	拠点病院	骨髓バンク 地区事務局	血液学会地方会
北海道 ブロック	北海道	北海道	北海道
東北 ブロック	青森、岩手、秋田 宮城、山形、福島	青森、岩手、秋田 宮城、山形、福島	青森、岩手、秋田 宮城、山形、福島
関東甲信越 ブロック	東京、千葉、埼玉、神奈川 群馬、栃木、茨城 山梨、長野、新潟	東京、千葉、埼玉、神奈川 群馬、栃木、茨城 山梨、長野、新潟	東京、千葉、埼玉、神奈川 群馬、栃木、茨城 山梨、長野、新潟
東海北陸 ブロック	愛知、静岡、三重 岐阜、富山、石川	愛知、静岡、三重 岐阜、富山、石川 福井	(東海) 愛知、静岡、三重、 岐阜
			(北陸) 富山、石川、福井
近畿 ブロック	大阪、奈良、京都、兵庫 和歌山、滋賀、 福井	大阪、奈良、京都、兵庫 和歌山、滋賀	大阪、奈良、京都、兵庫 和歌山、滋賀
中国 ブロック	岡山、広島、山口 島根、鳥取	(中国四国地区事務局) 岡山、広島、山口 島根、鳥取	(中国四国地方会) 岡山、広島、山口 島根、鳥取
四国 ブロック	愛媛、香川、徳島 高知	愛媛、香川、徳島 高知	愛媛、香川、徳島 高知
九州 ブロック	福岡、佐賀、長崎、大分 宮崎、熊本、鹿児島 沖縄	福岡、佐賀、長崎、大分 宮崎、熊本、鹿児島 沖縄	福岡、佐賀、長崎、大分 宮崎、熊本、鹿児島 沖縄